

創刊号 2003.7

- ファッションは、相手のために、お互いができることをするという気持ちです -

発行元 NPO法人 国際文化振興協会

# フーシャン創刊号 目次

## “フーシャン”始動！！

- P3 刊行挨拶にかえて  
「新しい価値観を求めて」  
P4 NPO法人ICPAについて  
P5 総力特集 フーシャン学習  
三大インタビュー  
P6 ・特別記念対談インタビュー  
P9 ・フーシャン学生座談会  
P14 ・日本語教師から見たフーシャン学習



- P13 アン・ランゲージ・スクールについて  
P18 コラム「なんとなくいい漢字」  
「作れそうで作れなかった あの味あの料理」  
P19 連載告知  
「中国お洒落指数向上委員会」(仮)  
P20 『フーシャン』の機能 新しい社交へ

NPO法人 国際文化振興協会（ICPA）は、  
2003年5月22日に設立されました。

# 新しい価値観を求めて

どうにも「無償の愛」「無償で何かをすることが苦手だ」という人は多いのではないでしょうか。

「だって自分が得をしないもの」という答えを間違っていると言いつけるのは難しい事です。ただ、どうも損得で物事を考えていると、高貴な精神でもって慈善活動を行っている人や、ささやかに、できることから人のために何かをしている人々を見た後に、

「自分はなんとケチな人間だろう」と自己嫌悪してしまいません。だから人としてなっていない、という意味ではありません。

そんな私、あなた、彼女、彼女に朗報です。ついに《フーシャン》が始まりました。

## フーシャンとは何か

フーシャンとは、「相互(huxiang・お互い)」という意味の中国語です。近くは中国の大学生が、留学してきた外国人の母国

語を教えてもらう代わりに中国語を教えるという語学学習の方法という意味で、日本人留学生の間で使われています。

要するにフーシャンは「お互いに相手の目的のために何かをしよう」という気持ちであり方法なのです。ケチな人間には実に明解な方法ではありませんか。

その気持ちは互いの母国語を学びたい人同士で行うフーシャン学習や、ボランティアやNPO団体などが一つの目的達成のために団体の枠を超えて協力し合う時や、お互いの理解を深めるための国際交流や、かなりこじつけますが、企業のコラボレーション・業務提携などに存在しています。

本紙『フーシャン』は、そんな人と人、人と団体、人と企業、と《フーシャン》を応援し、その活動の紹介を行う雑誌として刊行されました。

## イメージの滑稽さ

アジアというと、どこか遅れているとか貧しいというイメージがつきまとうているようです。個人的な体験から思い返すと、アジアの大国に留学していた私が、夏休みに郷里へ帰った折、

「おまえ、まだ中国に行くのか？」と聞かれ、そこは留学する人間など数えるほどしかない田舎町ということもあり、まだ幼かった私は少し誇らしげに「うん」と答えました。

「うわ、くっさ」

無邪気で、短くも棘のよう鋭い言葉に、思わず息をのみました。この国がなぜそこへ行ったこともない人間に「くっさ」と言われるのか、思い当たるフシがあることを否定はしませんが、それにしてもその答えはあんまりです。それが結局はこの国のイメージなの

かと、しばらくの間、思い出せば苦笑いをしたものです。

今尚そのイメージは色濃く残っていますが、それは変えるべきものだ確信しています。しかし、互いの国の友好のためというほど大それてはいません。あまり熱くなりすぎても当初の目標を見失ってしまう可能性もあります。そんなジレンマを抱えている人も多いのではないのでしょうか。

私達はただ自分の関係した国やそこに住む人々のイメージが悪く、それによ

て自分の品格まで貶められるようなモノの言い方をされるのが我慢ならないのです。

そこで《フーシャン》というやわらかく愛らしい、ウーロン茶やキムチ等の料理言葉以外のアジア語を直輸入することでその気持ちと方法を広めていき、イメージの向上を図りたいのです。

本紙『フーシャン』は、そんなイメージ向上の広告塔としても刊行されました。

国際交流にしろ、国内交流にしろ、助け合いにしろ、何にしろ、動機は大層でなくともいいのです。ただ互いに相手のためにできることをする。身の丈にあつた気持と活動。それが大きなつねりを生むこともあるでしょう。

これらフーシャンに関する諸活動とフーシャンの普及を応援するのが、本紙を発行するNPO法人国際文化振興協会（ICPA）です。

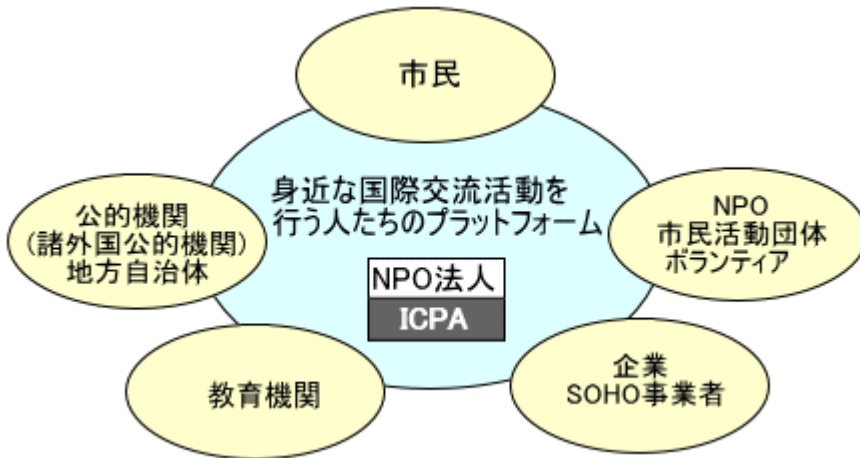


# NPO法人 国際文化振興協会とは (ICPA)

本格的な国際社会の到来と同時に、国境を越えた人の往来が活発になっていきます。こうした動きは、国際経済活動のアジアシフトに伴い、特にアジア経済圏において顕著ですが、国を超えて活動を望む人を支援するサービスや体制はまだ未整備の状態です。

国際文化振興協会（以下ICPA）はこのような現状に対し、「身近な国際交流、異文化理解活動の実践」をモットーとして、すでに同様の活動を行い、あるいは、これからそうした活動を行いたい個人・団体がともに活動を協力して行うことのできる、多様で柔軟な国際交流活動のプラットフォームとして設立されました。

個々の活動には限りがあります。同じ志、目的を持つもの同士が協力して、また公的機関や地方自治体、教育機関等との連携を重視



して、身近な地域における国際交流活動の普及を目指します。そして、今日日本に求められている国際社会での役割を果たすための基盤

形成の一役を担う、「市民活動のプラットフォーム」として、NPO活動を行っていきます。

ICPAは、今年5月に認可を受けたばかりの若い団体ですが、定款に定めた活動内容を幅広くとっています。

左表はICPAの長期的活動内容ですが、また活動を開始したばかりのため、その全てを一時に行うことは困難があります。

## まず最初に行うこと

そこで、ICPAではこれらの事業を展開するための足場固めとして、「異文化交流活動を実践する人たちのコミュニティーの形成」を目指します。

1. 異文化理解のための母国語普及事業
2. 国際社会に求められる人材育成支援事業
3. 国際間人材交流事業
4. 国際文化交流支援事業
5. 企業活動グローバル化支援事業
6. SOHO事業者支援事業
7. IT活用支援事業

相手の国の言葉を知ることとは、すぐに実践できる異文化理解の有効な手段です。ICPAでは設立当初の活動として、この母国語普及、とりわけ潜在需要が伸びつつある中国語に焦点を当て、以下を重点項目として掲げ、それぞれの活動を行っていきます。

「フーシャン」\*学習を特徴とした多様な学習サービスを総合的に提供  
地方自治体、市民活動団体、教育機関等のサポート  
コンピューターやインターネット等のITインフラの活用を重視

これらの活動は、ボランティアやNPO等の市民活動団体と、また各市町村や教育機関と連携して行うべく予定しています。

考えられる事業だけでも、語学講座の立ち上げ・運営支援、公的機関の助成制度活用支援、活動エリア外組織との情報共有、市民に対する生涯学習活動のサポート、外国籍市民に対す

る日本語学習。情報提供・その他の施策のサポート。中国語教育を取り入れる高校へのライブ学習サポート、総合学習などへの異文化理解教育のサポートなどがあります。

これらの活動は、今後この紙面上で紹介していく予定です。まずは多くの方に興味を持ってもらい、少しずつこれらの活動への参加を呼びかけていきます。

## ICPA会員募集中!

日本にご興味のある  
中国人の方も大歓迎  
(会員特典・お得な情報が満載)  
(詳しくはICPA本部事務局まで)

「フーシャン」について  
ICPAでは、「フーシャン」の「お互いに する」という精神こそ、異文化理解の大事な気持ととらえ、ICPAが行う異文化交流活動を総称して「フーシャン」と呼ぶことにしています。